序　文

平城宮の南面大垣に開かれた壬生門を入ると、式部省と兵部省の役所が整然と向かい合う状況の遺構整備がなされています。この地域、平城宮東区朝堂院の南側地域で発掘調査が進展したのは1980年代から1990年代にかけての頃であり、両方の役所とも敷地の北側中央に正殿、その左右前方に脇殿を配置して中央を大庭とする均整のとれた建物配置になりました。

「兵部省」と「式部省」という律令国家の中枢的な官庁が、具体的な遺構として眼前に現れたことは大きな収穫であり、多くの人たちから注目され、発見当初から発掘報告書の出版が望まれてきました。先ず「兵部省」を今回の報告書として取り上げ、奈良時代における中央官署の景観をできるだけ克明に描写することにしました。これは平城宮研究史・奈良時代研究史にとって特筆すべき事柄であり、平城宮跡発掘調査部一同力を合わせて調査研究に取り組んできました。その成果は古代の官僚制度のみならず、古代国家観をも大きく左右するものと自負しており、編集者を始めとする報告書つくりに関係された諸君の努力を大いに称えたいと思います。一方では、この報告書が将来、平城宮跡の活用と整備におおいに威力を発揮するものと考えています。こうした私たちの発掘報告書に対して、内外の読者諸氏から忌憚のない批判とご鞭撻を賜れば幸いであります。

最後にこの場を借りて、調査の開始以来各種の便宜をはかっていただいた文化庁・奈良県教育委員あるいは発掘・資料整理など各方面でご援助いただいた関係の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成17年１月

独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所
所　長　町　田　　章